

暮らしを変える

屋根のリフォーム

「屋根のリフォームの注意点を教えてほしい」という質問をしばしば受ける。風雨にさらされる屋根や外壁は定期的なメンテナンスが欠かせない。

屋根材として普及している彩色スレート板は、美観の面から10年ごとの塗り替えが推奨されている。10年は「新築したばかり」という感覚かもしれないが、軒裏や屋根板金部分の劣化を考慮すると、やはりそろそろメンテナンスを計画し始めたい。外壁塗装など足場が必要な工事とまとめて実施すると効率的だ。

屋根を考える際のポイントとして、もう一つ、家の屋



「ルーフバルコニー」で、暮らしを豊かに



1階部分の屋根が海を楽しむルーフバルコニーに



ルーフバルコニーで2世帯住宅の子世帯用の庭が実現

根の中で2階が載っていない平屋部分の屋根がないかいない。屋根を「ルーフバルコニー」にすると暮らしがぐんと豊かになる。お勧めする。もしあれば、その位置や大きさはどうなっているかをチェックしてみよう。都会では貴重な日当たりと眺望にめぐまれた場所が単なる屋根となっている。奥行半間ほどのふつうのバルコニーと違い、ルーフバルコニーは6畳や8畳のバルコニーは6畳や8畳のりと眺望にめぐまれた場所が単なる屋根となっている。れしかも、「増築」として計

ただし、住宅の構造によっては1階の天井裏の補強が必要な場合もあるので、よく確認しておくことよいだろう。

屋根の更新としては、築30年前後になると屋根材そのものの葺き替えを検討する時期となる。軽量の屋根材を既存の屋根の上に葺く「重ね葺き」(カバー工法)もいうも増えてきた。廃棄物を減量でき、工期も短縮できる、2重になるため断熱性が高まるといったメリットがあるが、既存の屋根の荷重を十分検討したいところだ。

今、太陽光発電が注目を集めているが、既存の屋根に設置する場合はメンテナンスサイクルをきちんと踏まえておきたい。